

人口	486,121人 (+120)
男	236,335人 (+87)
女	249,786人 (+33)
世帯数	179,265 (+182)

住民基本台帳による。()は前月比

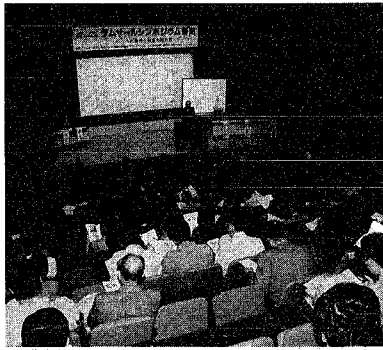
平成 8年
12月15日
第1555号

にいがた



発行日 毎週日曜日 発行新潟市 〒951 編集 総務部広報課
学校町通1-602-1 印刷 第一印刷所

ラムサールシンボが開催 佐潟保全に多くの意見



全国各地から約300人が集ったオープニングの様子

自然の宝庫、佐潟(赤塚)がラムサール条約登録地になったことを機に、十一月二十八日から三十日に本市で、「ラムサールシンボジウム新潟」として、湿地の生息の「たち」が開催されました。同シンボジウムは日本の試みで、全国から湿地に携る市民グループ、専門家、行政機関が一堂に会して、湿地保全について積極的な意見交換がなされました。

同シンボジウムは、環境省、市、NGO(非政府組織)、市民グループの席上、実行委員長を務める長谷川市長は「貴重な湿地が主催となり開催された地を守ろう」という機運が世

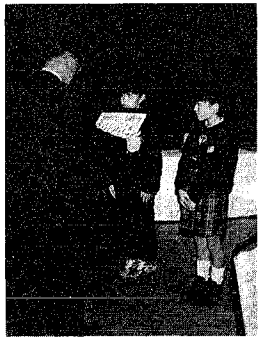
界規模が高まっている中、同シンボジウムを本市で開催し、具体的な議論を展開することは意義深い。今後、佐潟を人と自然との豊かな触れ合いの場として活用するとともに、大切に守り続けていきたい」とあいさつ。その後、大熊孝博新潟大学教授らによる基調講演が行われました。

8年環境白書まとまる 公害苦情が減少

平成七年度の本市の環境保全施策や環境の状況などを取りまとめた「環境白書「新潟市の環境」第二九集」がまとまりました。調査の結果では、大気汚染、水質汚濁、騒音など前年度までと比較して、ほぼ横ばいでした。また、市民の大気汚染が全体の三割を占め、続いて騒音が二九%

六は「一年生の時からみんなを取り組んでいます。夏の海岸清掃は大変だったけれど、やってみてよかった。これからも、まちを美しくしていきたいです」とうた団体、個人に感謝状を贈っています。

地域の環境美化を表彰 真砂小児童会らに感謝状



感謝状を受ける真砂小の渡辺裕樹さん(中)と澤村祐子さん(右)

市では、長年にわたってシヨンの清掃など地域の海岸や道路、ゴミステア境美化率仕活動に努めてきた二団体、四人が受賞席上、長谷川市長は「皆さんの地道な活動のおかげで、いまが保たれている。皆さんの活動を手本として、活動を輪が広がっていくことを期待しています」とこたへました。また、「一人ひとりに感謝状を手渡し、感謝状を手にした真砂小学校の環境美化委員を務めていた渡辺祐樹さん(小

長谷川市長が街頭啓発 いじめ根絶訴える



人権週間の初日に当たる今日四日朝、JR新潟駅前で長谷川市長、山本孝雄新潟副市長、一日人権擁護委員に委嘱された宮川中学校の生徒十二人らに呼びかけ、いじめや体罰、差別解消を訴えるリーフレットを配り、通学の人たちに今年の人権週間の重点は外国人・部落・女性、ベーンを行っています。

市役所・市教育委員会
☎228-1000 (代表)

テニスガーデンにいがた... 276-8900
園芸センター... 266-1034
道局... 266-9311
市民病院... 241-5151
水保健康所... 243-5311
石山地区保健センター... 286-4450
鳥屋野地区保健センター... 285-2373
北地区保健センター... 259-7332
西保健所... 266-5171
西地区保健センター... 262-3405
坂井輪地区保健センター... 260-3255

電話案内

急患診療(市医師会・県歯科医師会)☎228-2822
急患診療センター... 228-2822
休日歯科診療センター... 283-3030

急患診療

◎内科・小児科
日曜・祝日 午前9時～翌朝6時半
土曜 午後2時～翌朝6時半
平日 午後7時～翌朝6時半
市医師会急患診療センター
白山通2-180-5

◎歯科
日曜・祝日 午前10時～午後5時
県歯科医師会
休日急患歯科診療センター
堀之内南3-6-13

◎保険証を忘れずに

☎228-2822

☎283-3030

筋の道

イチゴ栽培 山崎能夫さん (65歳、西山)



食卓に甘い春の味を送る

イチゴの甘い香りが漂うビニールハウスの中で一大江山のイチゴは天下一品です。と山崎さんはにこやかに話します。

山崎さんがハウス栽培を始めたのは昭和三十八年。パイプを支柱としたものが「最初のハウスは、太平洋側で使われていた型を持ち込んだもので、北風が吹けば飛び、雪が降ればつぶれしてしまうなど苦労の連続でした」と当時を振り返ります。

昭和四十二年に鉄製の日照時間を補うために、昭和六十二年からハウス内を電気で照らしてました。「当初は、電気が当たるとするのだと言われましたが、二三年後には、すっかりイチゴ農家に定着しました」と山崎さん。

太平洋側で作られる真っ赤に色づく品種のイチゴに押しのけ、クリスマスケーキ用のイチゴの出荷は減りましたが、「色は淡いけど、甘みでは負けませんよ」と満面の笑みを浮かべます。